

篠崎将 里山ある記 名戸ヶ谷ビオトープ

かつては、新柏駅から名戸ヶ谷までは湿地や水田地帯でした。現在は開発が進み、谷津の面影が残されているのは湧水が豊富であった名戸ヶ谷ビオトープのみとなってしまいました。このビオトープは、平成14年に柏市が環境省からの補助金を得て造成したもので、①湿地の自然として多様な動植物が生息する場を育成する、②生息、育成する動植物は、本来この地に生息していたものとする、という原則に従って管理されています。

具体的な活動としては、一般市民を対象とした自然観察会の開催、生態系調査、無農薬無化学肥料による有機稲作栽培などが行われています。

平成25年の調査によれば、植物では、千葉県絶滅危惧種に指定されているヒメヘビイチゴ、ヒメウキガヤ、イチヨウウキゴケをはじめ50種以上の湿地性植物が観察されています。動物では、絶滅危惧種のダイサギ、コチドリ、カワセミ、ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル、ギンブナ、スジエビ等26種のほかに100種以上の生きものが観察されています。

ビオトープは、多様な生きものの生活空間であるとともに、身近な自然に触れて生きものとの共生を考える地域の学校の環境教育の場となっています。



ニホンアカガエル

シュレーゲルアオガエル

孤独死防止の取り組み 常盤平団地の活動を視察

平成26年2月26日、地区社協部主催の地域福祉視察研修会を実施し31名が参加しました。視察先は5359世帯で構成する常盤平団地自治会。最初に中沢会長による「孤独死ゼロ作戦、11年のまとめ」についての講演を聞きました。平成13年に起きた「孤独死白骨死体3年経過事件」などがきっかけとなり「孤独死ゼロ作戦」を展開。平成16年に「まつど孤独死予防センター」を設立した当時は孤独死が年間21名いましたが、近年では10名以下となっています。また、発見までの期間も3日以内となりました。

孤独死は高齢者ばかりではなく、中年層の人にも。共通点は、①挨拶をしない、②町会に加入をしない、③友達がいらない、など「ないないづくし」の人に多く見られます。そこで人のつながりとふれあいを求めるための場「いきいきサロン」を開設。「挨拶は孤独死ゼロの第一歩」をスローガンに予防センターと共同で事業を推進しています。講演後に活発な意見交換があり、関心の高いテーマだと実感しました。 増尾日立自治会 成宮 美雄

「手打ちうどん」に舌鼓

平成26年2月25日午前9時から増尾近隣センター調理室で、地区社協部主催の「男の料理教室」を開催。参加者15名は、讃岐うどん普及会、鳥飼弘さんの指導でうどん作りをしました。

ふる協からのお知らせ

平成26年度総会を下記の通り開催します。なお、出席者には追って詳細をお知らせします。

日時 平成26年5月11日(日) 午後1時30分より
場所 増尾近隣センター体育室

ボランティア募集中

障がい者福祉施設で、毎月第4金曜日、午前9時30分から12時まで、簡単な作業(園芸その他)のお手伝いをして下さる方を募集します。

地区社協部 吉川(TEL 7176-3631)まで、お問い合わせ下さい。

防犯防災部 間宮 節子

年末夜間パトロールを実施

平成25年12月22日、年末の夜間防犯を啓発するパトロールを防犯交通安全組合との共催で実施しました。

午後6時の増尾駅前ロータリーには、「防犯安全安心」の文字が目立つベストを着用した男性78名、女性26名、計104名の町・自治会員と青色パトロール乗車の柏市防災安全課職員2名が集合。出発前に増尾駅前交番署員から、周辺地域の現状とパトロールにおける諸注意を聴き、松野台、加賀、新柏、名戸ヶ谷、増尾、逆井の各方面に分かれて約1時間巡回しました。



吉田 稔筆



みんな元気 住んで良かった この地域

平成26年4月 No.109

●編集・発行
柏市増尾地域ふるさと協議会
(土地区社会福祉協議会)

〒277-0033
柏市増尾三丁目1番1号
増尾近隣センター内

☎ 04-7174-7211
http://masuo80@live.jp

第3期地区健康福祉活動計画

誰もが主役のコミュニティづくり

地域福祉の向上のために、地区社協部では、地区懇談会の意見を踏まえて、平成26年度から始まる第3期地区健康福祉活動5か年計画を作成しました。子ども、子育て・現役世代、高齢者を対象に、多世代交流型コミュニティづくりを目指し、三つの目標に取り組みます。これらの目標は、地域の皆さんの参画なくしては達成できません。ご協力をお願いします。

1 地域ぐるみで子育てをする「組織づくり」

高齢者には、地域の子どもの自分の孫のように育てることが、生きがいになり、孤立防止につながると考え、また、子育て・現役世代には、地域活動に参加すること

のきっかけとなるよう、地域ぐるみの子育てに取り組みます。

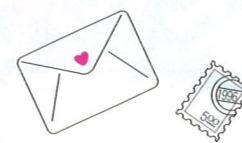
2 地域を支援する「人づくり」

子どもには、郷土愛、思いやりの心の醸成、高齢者には生きがい発見のためのセミナーを開催します。また、青少年健全育成協議会、青少年相談員、PTA等と協力することで、その中から若い世代のリーダーを発掘します。

3 子どもも大人もみんなが集まる「居場所づくり」

小中学生が、学校以外で集える場所がありません。子どもが高齢者と交流できる場の確保を目指します。

地区社協部 大江 幹



私の町会・自治会だより

皆さんの町会・自治会を紹介していくコーナーです。

名戸ヶ谷町会

東武新柏駅から「新柏さくら通り」を北へ約1.5キロ、大イチョウで知られる法林寺を中心とした地域の住民で構成しているのが名戸ヶ谷町会です。

町会の特徴の一つは、地域によって「動」と「静」の差が激しいことです。北から東方面にかけては水田や畑が広がり、南は雑木林などが多く残る緑あふれる閑静な地域です。そして町会の中心部は、スーパー、ホームセンター、コンビニ、病院が集中し、終日、人と車で混雑。特に休日はさらに激増し、周辺主要道路から路地まで大渋滞を招いています。

町会に加入している268世帯の約半数は昔から代々この土地に住んでいる世帯で、他の半数は新柏区画整理地内の一戸建て住宅に入居した若い世帯

です。それでも少子高齢化は進んでおり、少子化の現象として、小学校新入生の数が年々減少傾向にあります。町会内が第八小学校と名戸ヶ谷小学校の2学区に分かれているということもあり、お互いの交流はほとんど無く、結びつきが弱いように感じられます。

このような地域性のなかで、幅広い世代が参加できる事業を行い、住民同士の交流を図り、生きがいのある町づくりを目指したいと思っています。

また、2年前から防犯灯のLED化を進めています。好評により、今後完全実施する予定です。

会長 宇佐見 義雄



訪問看護と訪問介護 「在宅医療勉強会」開催

平成26年1月30日、増尾近隣センターにおいて地区社協部主催「在宅医療勉強会」を行いました。柏市が直面している高齢化は増尾地域も例外ではありません。長寿社会への対応策の推進状況が、柏市保健福祉部福祉政策室から「在宅医療の取り組みについて」と題して説明がありました。

病気になっても住み慣れた家で暮らしたい。そしてわが家が最後を迎えたい。この思いをかなえるべく、24時間在宅ケアとして訪問看護と訪問介護が実施されています。その具体例について、チームワークの中心となり在宅医療を行っている、つくしが丘医院院長の原彰夫先生から聞きました。在宅医療は一般的な診療に加えて、専門的な医療機器の使用もできますが、まだ参加している開業医は少なく、ご苦労は多いようです。

在宅医療の普及に備え、地区医師会、ケアマネージャー、ヘルパーなどの専門職や自治体は多職種研修会を開催し、在宅医療の質の向上を図っています。

在宅ケアに関してのご相談は柏市保健福祉部福祉政策室(TEL7167-1171)へ。地区社協部 沼田 俊子

生きがいとやりがい 長寿社会での心がけ

平成26年1月28日、光ヶ丘近隣センターにて柏市消費生活コーディネーター南ブロック講演会を開催しました。東京大学高齢社会総合研究機構の木村清一先生を講師に迎え、テーマは「あなたが主役となる超高齢化社会の暮らし」。60名が参加し、熱心に聞き入りました。

世界の高齢化では日本がトップの現状の中、柏市は65歳以上の高齢人口21%と超高齢化社会となっています。医療や介護の面では問題山積。一人一人が長寿社会にふさわしい生活をするのが、問題を少なくする生き方です。外に出て人に会い、体を動かし、生きがいとやりがいのある暮らしを心がけることが大切とお話でした。

また、柏市は、高齢者を巧みに誘う手口の悪質商法の被害が、千葉県で一番多く発生しています。不安を感じたら、柏市消費生活センター(TEL7164-4100)にご相談ください。消費生活コーディネーター 中島 シズ子

We Love Kashiwa
元気な 柏 発信プロジェクト

多彩 芸能発表大会 平成26年3月2日



向上する家庭のエコ活動

地球温暖化防止をテーマに「環境フェア2013パネル展」を、平成25年12月7日から14日まで増尾近隣センターロビーで消費生活コーディネーターと共催で実施しました。

「家庭で行っているエコ活動アンケート」には、昨年より107名多い471名から回答をいただきました。「買い物にマイバッグ」「電灯をこまめに消す」「生ゴミの堆肥化」「トレーの返却」「車利用から自転車や徒歩へ」「マイ水筒持参」など、家庭での努力がうかがえる回答が多数ありました。

皆さまのご協力により、ペットボトルキャップは回収開始から累計41万5千個、ワクチン500人分となりました。引き続きご協力をお願いいたします。

環境部 中山 紀之

8年ぶりの 新春囲碁将棋大会

平成26年1月26日、要望の声に応じて8年ぶりに「新春囲碁将棋大会」を開催しました。午前9時の受付開始前から参加者が集まり、静寂の中にも気合が感じられました。

囲碁は12組24名がA・Bクラスに分かれての対局です。勝負が拮抗する対戦は、審判員も盤を取り囲んでの判定となりました。将棋は大人13名と高校生1名の計14名が参加、7組での対戦です。小学校1年生と4年生の兄弟がお父さんと共に、対局指導に加わっての参加もありました。

熱戦が繰り広げられ、優勝者は囲碁Aクラス日暮孝雄さん、Bクラスは葛野俊之さん、将棋は町田哲さんでした。今回は囲碁将棋同好会の皆さんが実行委員として参加して下さり、多世代交流も生まれた大会になりました。

文化体育部 小林 みつえ



盤の前にジッと動かさず。さあ、次の一手は?

増尾地域の魅力を新発見

ちいき探検ウォーキング

平成25年12月1日、昨年度に続き、文化体育部主催「ちいき探検ウォーキング」を開催。小学生から中高年、案内役の増尾探検隊の方々を含め、参加者は70名です。

3班に分かれて、増尾近隣センターを午前9時にスタートし、まず少林寺に到着。増尾ゆかりの詩人江口章子(あやこ)の歌碑の説明を聞きました。つばめ池から高低差のある用水路に落ちる水流の勢いに驚きつつ、県道を横断すると時代劇に出てくるような旧道が出現。昔の面影そのままのタイムスリップしたような風景に「知らなかったね。こんな道!」と話が弾みます。

次に目指すのは増尾城址公園です。芝浦工大柏高中のグラウンドを見渡し、標高20mの城址跡の落ち葉を踏みしめながらのウォーキング。七五三の参拝者でにぎわう廣幡八幡宮の横を通り抜け、昨年訪れた幸谷城館跡に

着きました。ボランティアの「柏ふるさとづくり隊」の尽力により整備された林には、5月の連休明けに絶滅危惧種のギンランの花が見られるそうです。かやぶき屋根の伊藤家母屋には古い生活用品などがあり、昔の暮らしが垣間見られました。土小学校校庭にある百年ザクラの大木を眺めながら増尾近隣センターへ。

今回もあらたな発見がいくつもあり、まだまだ知らない魅力がありそうです。次回の「ちいき探検ウォーキング」に乞うご期待! 文化体育部 小林 みつえ



この道の先に見えるのは過去? 現在?

地区社協部子ども講座 出来たよ! 世界に一枚のTシャツ

平成25年12月1日、増尾近隣センター体育室において、小学生を対象に地区社協部主催の子ども料理・工作講座「つくってあそぼ」を開催しました。土小学校、増尾西小学校、中原小学校の児童50名が参加。ボランティアの土中学校生徒、青少年相談員が加わり、にぎやかに始まりました。

Tシャツに、マジックで思い思いの絵を描くと、カラフルで素敵な世界で一枚の自分だけのTシャツが出来上がり。このTシャツをエプロンがわりにして、サンドイッチ作りの開始。食パンをハートや星などの型で抜き、ジャムを塗ったもう1枚を重ねれば、楽しいサンドイッチの完成です。

参加者全員で、楽しいおしゃべりをしながら食べました。サンタさんからプレゼントのサプライズもあり、みんな大喜び。世代を超えた交流の楽しさを味わってもらえたようです。



サンタのプレゼントはなあに?

全員での片付け終了後、体育室全体を使って「だるまさんが転んだ」で遊び、最後の最後まで楽しみました。

青少年相談員土中学区学区長 小日向 悦子